

# 港区立みなと科学館 第三者評価報告書

－令和4年度－

評価機関：総合システム研究所株式会社



## 目次

1. 評価施設の概要 .....	1
2. 評価の概要 .....	2
(1) 評価項目の体系 .....	2
(2) 評価の基準 .....	3
(3) 評価の方法 .....	4
3. 評価の総括 .....	5
(1) 評価結果一覧 .....	5
(2) 全体の総括 .....	6
(3) 中項目評価 .....	7
4. 利用者アンケート結果における満足度 .....	11
5. 事業計画書の目標値の達成 .....	11
6. 個別評価結果 .....	12
I 基本方針と組織 .....	12
カテゴリ1 理念・基本方針 .....	12
カテゴリ2 計画の策定と実行 .....	12
カテゴリ3 管理者の責任とリーダーシップ .....	13
II 組織の運営管理 .....	15
カテゴリ1 人材の確保・育成 .....	15
カテゴリ2 安全管理 .....	16
カテゴリ3 施設管理 .....	17
カテゴリ4 個人情報保護 .....	18
カテゴリ5 指定管理料の執行状況 .....	18
カテゴリ6 地域との交流と連携 .....	19
III サービスの提供 .....	19
カテゴリ1 利用者を尊重したサービス .....	19
カテゴリ2 利用者意向の把握と活用 .....	20
カテゴリ3 サービスの質の確保 .....	21
IV 科学の活動に関するとり組 .....	23
カテゴリ1 科学体験の場の提供 .....	23
カテゴリ2 科学の体験の個別の取組み .....	23
7. 利用者アンケート調査集計結果 .....	26
(1) 利用者属性 .....	26
(2) 利用状況 .....	26
(3) 満足度 .....	27



## 1. 評価施設の概要

評価対象施設名	港区立みなと科学館	
	建物全体	みなと科学館
面積	建築面積 2,720.00㎡ 延床面積 42,780.00㎡	1,254㎡
建物規模	地下2階、地上14階	1階から2階の一部
整備施設	エントランスホール、総合受付 気象科学館、広報室(気象庁) 気象庁執務室 港区立教育センター 駐車場、食堂 靱絵メモリアルプレイス	常設展示コーナー、実験室、 多目的ロビー、受付事務所、 プラネタリウムホール
所在地	港区虎ノ門三丁目6番9号	
指定管理者名	トータルメディア・東急コミュニティーみなと科学館運営グループ (代表企業:株式会社トータルメディア開発研究所 構成企業:株式会社東急コミュニティー)	
指定期間	令和2年(2020年)4月1日から令和7年(2025年)3月31日 [5年]	
運営体制	[訪問調査日時点] 館長1名、事務局長1名、リーダー・サブリーダー7名 一般職員13人、アルバイト17名	

## 2. 評価の概要

### (1) 評価項目の体系

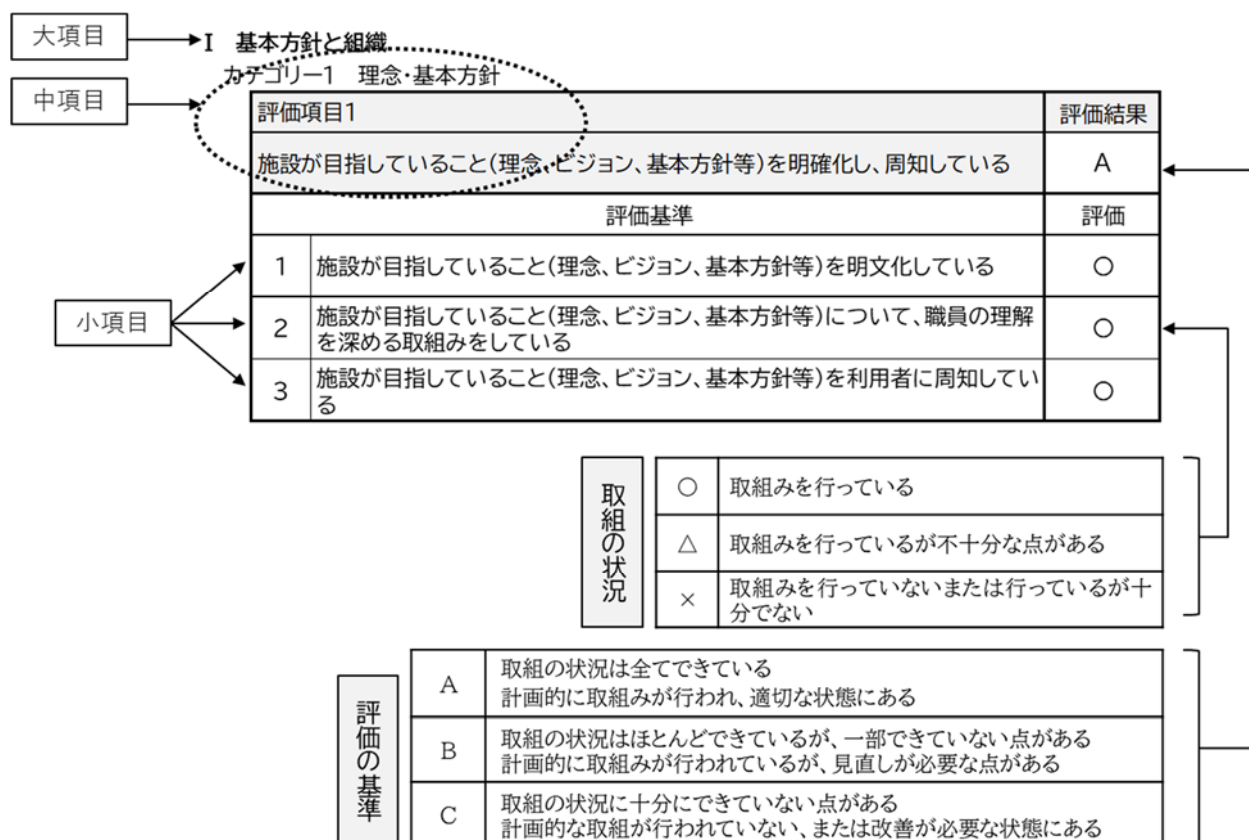
評価項目の枠組みは、大項目、中項目、小項目で構成しています。小項目(評価項目)の中に、取組の状況についてチェック項目を設定しています(詳細は次ページ「(2)評価の基準」を参照)。

大項目	中項目	小項目
I 基本方針と組織	カテゴリー1 理念・基本方針	評価項目 1
	カテゴリー2 計画の策定と実行	評価項目 2, 3
	カテゴリー3 管理者の責任とリーダーシップ	評価項目 4, 5
II 組織の運営管理	カテゴリー1 人材の確保・育成	評価項目 6-8
	カテゴリー2 安全管理	評価項目 9
	カテゴリー3 施設管理	評価項目 10
	カテゴリー4 個人情報保護	評価項目 11
	カテゴリー5 指定管理料の執行状況	評価項目 12
	カテゴリー6 地域との交流と連携	評価項目 13
III 適切なサービスの実施	カテゴリー1 利用者を尊重したサービス	評価項目 14
	カテゴリー2 利用者意向の把握と活用	評価項目 15, 16
	カテゴリー3 サービスの質の確保	評価項目 17, 18
IV 科学体験の場の提供	カテゴリー1 科学体験の場の提供	評価項目 19
	カテゴリー2 科学体験の個別の取組	評価項目 20-22

## (2) 評価の基準

各小項目に対し、下記の評価の方法により評価を行っています。

- ① 「取組の状況」の評価欄に○△×で実施状況のチェックを入れます。
- ② ①の結果と、「評価の基準」に基づき、小項目の「評価結果」欄にABCの3段階で評価をします。
- ③ 小項目ごとに、取組状況の詳細や課題、推奨事項を「評価の講評」に記載します。



### (3) 評価の方法

#### ① 利用者アンケート調査

本評価における利用者アンケート調査は、指定管理者が実施しているアンケートから、評価を行うに当たり必要な項目を第三者評価機関が再集計・再分析する形で行いました。分析に当たっては、第三者評価に必要な調査項目のみを抽出しています。

#### ② 指定管理者自己評価

管理者層及び一般職員・アルバイトの各人に自己評価シートを配布・回収し、結果を集計しています。集計結果は、訪問調査の際の参考としています。

#### ③ 訪問調査

第三者評価員2名が施設を訪問し、運用書類の確認、目視・ヒアリングに基づく施設の確認と、管理者層に対し、自己評価に基づく聞き取り調査を行っています。

評価の方法	実施期間
① 利用者アンケート調査	令和4年(2022年)8月1日～9月30日 (回答数 1,095件)
② 指定管理者自己評価	令和4年(2022年)11月24日～12月4日
③ 訪問調査	令和5年(2023年)1月11日



### 3. 評価の総括

#### (1) 評価結果一覧

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果
Ⅰ 基本方針と組織	カテゴリー1 理念・基本方針	1	施設が目指していること(理念、ビジョン、基本方針等)を明確化し、周知している	A
	カテゴリー2 計画の策定と実行	2	施設の運営についての課題を把握し、事業計画を策定している	A
		3	計画(企画展や番組編成の個別計画)は段取りを踏みながら、着実に実行できるよう取り組んでいる	A
	カテゴリー3 管理者の責任とリーダーシップ	4	管理者(施設の責任者および経営層)は、公の施設の管理運営者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	A
		5	管理者(施設の責任者および経営層)は、管理者の役割と責任を職員に対して表明し、施設運営をリードしている	A
Ⅱ 組織の運営管理	カテゴリー1 人材の確保・育成	6	施設の運営にあたり必要な人材の確保・育成に取り組んでいる	A
		7	職員の就業状況に配慮をしている	A
		8	職員の質の向上に向けた体制を確立している	A
	カテゴリー2 安全管理	9	利用者の安全・安心を確保するための危機管理の仕組みを構築している	B
	カテゴリー3 施設管理	10	展示物等の設備機器類の管理を適切に行っている	A
	カテゴリー4 個人情報保護	11	利用者や職員のプライバシーを確保するための取組が行われている	A
	カテゴリー5 指定管理料の執行状況	12	指定管理料や利用料金の会計管理を適正に執行している	A
カテゴリー6 地域との交流と連携	13	地域との関係を適切に確保している	A	
Ⅲ 適切なサービスの提供	カテゴリー1 利用者を尊重したサービス	14	利用者を尊重する姿勢を明示している	A
	カテゴリー2 利用者意向の把握と活用	15	利用者からの苦情や要望を多様な方法で把握し、迅速に対応している	A
		16	利用者の意向を集約・分析し、サービス向上に取り組んでいる	A
	カテゴリー3 サービスの質の確保	17	それぞれの業務に関する手引書等を整備し、業務の標準化を図っている	A
		18	業務水準の維持や利用者標準化に対応するため、職員間の連携をしている	A

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果
IV 科学体験の場の提供	カテゴリー1 科学体験の場の提供	19	科学についての関心を高め、楽しく体験することができる場を提供している	A
	カテゴリー2 科学体験の個別の取組	20	科学に関する各種の事業を行っている	A
		21	プラネタリウムに関する各種の事業を行っている	A
		22	科学館の魅力を伝える広報や情報の発信を行っている	A

## (2) 全体の総括

### 【評価できる点】

本施設は開設されてまだ新しい施設で、科学館としては小規模ですが、業務の範囲は多岐に渡り、事業数も非常に多いことが特徴です。運営開始直後から新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館や利用の制限があり、運営方法や計画の見直しを余儀なくされましたが、こうした事態に直面しながらも、感染症予防対策を取りながら、できうる方法を模索し、運営開始 2 年目には当初の目標である、利用者数 12 万人を達成しています。こうした事業推進の背景には、事業者の運営経験に裏打ちされたマネジメント体制が適切に働いています。また、企画展示やイベントのノウハウや、学識者や専門機関、地域の企業や団体・機関等とのネットワークが当施設に投入され、科学を通じたまちと人の成長を支えるという運営コンセプトに基づいた、良質な事業の展開に繋がっているといえます。今後はさらに高い目標を設定し、運営を向上させていくことを期待します。

### 【改善すべき点】

早急に改善を要する点はありませんが、わずかながら十分ではない事項がありました。危機管理の面で、緊急事態発生時の対応について、職員は訓練や説明を受けていますが、アルバイトの危機管理対策については決まりがない状態となっています。職責・配置場所に応じた初動対応は、説明をしておくことが望ましいです。

### (3) 中項目評価

I 基本方針と組織	
カテゴリー1 理念・基本方針	<p>施設が目指していることを職員が目が届く場所に掲示し、職員研修やミーティング、日々の業務や事業計画の説明等を通じて周知・指導をしています</p> <p>利用者には、ホームページ上で「科学館事業のコンセプト」や「運営の基本方針」である9つの指針を公開しています。</p>
カテゴリー2 計画の策定と着実な実行	<p>計画の推進は、事業を取り巻く環境や運営状況等の振り返りを行いながら、職員の意見を交え、計画期間に応じた各種計画を策定しています。計画の推進にあたっては、各チーム(広報・連携、教育普及、教育アドバイザー、プラネタリウム)がそれぞれ役割を担い、リーダー層がチームに課せられた役割の推進をけん引しています。</p> <p>達成目標は、年間の利用者数(科学館利用者数、プラネタリウム観覧者数、実験室等の利用者数、多目的ロビー(企画展示等))で設定しています。新型コロナウイルス感染症による事業活動の制限がある中で、令和3年度は年間の利用者数目標を達成することができています。</p>
カテゴリー3 管理者の責任とリーダーシップ	<p>指定管理者としての行動基準や心得等の周知、コンプライアンス研修等を通じ、守るべき法・規範・倫理等を共有しています。</p> <p>適切なマネジメント体制が構築されています。館長・事務局長・プロジェクトリーダーが各チームを束ね、各チームのリーダー・サブリーダーは、職員の業務の状況の確認と、職員一人一人が行う事業へのアドバイスや具体的な対応を指示しています。また、プロジェクトアドバイザーによる学術的な助言を定期的に受けています。決定事項やその経緯は、全体会議等で職員にフィードバックしています。</p>

II 組織の運営管理	
カテゴリー1 人材の確保・育成	<p>科学館の設置目的を達成するために必要な、職員に求める人材像は、目標設定シートを通じて理解を深めています。また、職人に対し面談を行い、各職員に求められる役割と実績や態様について、フィードバックしています。</p> <p>人材の確保については、学芸員募集を専用に扱うサイトや有料媒体の活用等により、採用活動を行っています。職員の育成については、配属に応じた研修計画を策定し、スキルの向上を図っています。</p> <p>人材の配置については、当館の特色となる業務に対応できるよう、元学校教員や、学芸員、教育職経験者、研究職であった者等を適所に配置しています。また、有識者であるプロジェクトアドバイザーや有識者会議から、事業運営に関する助言を受けています。</p> <p>職員一人ひとりについて、日々の就業状況に逸脱がないか、また、職員により業務の偏りがないか確認を行っています。ハラスメント等については、発生した場合に相談できる窓口があることをスタッフ全員に周知しています。面談では、活動実績の共有や目標のすり合わせ、就業状況の確認等を行うほか、人間関係についてもヒアリングし、働きやすい環境を整備しています。</p> <p>研修では、科学館としての理念や大切にしていること、研修の目的等を説明しています。着任時には、当館の全体像を知るための研修プログラムを準備</p>

	<p>し、全員が受講しています。着任時以降は、それぞれの職責に応じた研修計画を策定し、計画通りに研修を行っています。受講後は研修報告書を提出し、業務への結びつけを行っています。</p>
<p>カテゴリー2 安全管理</p>	<p>施設で起こりうる危機を想定した緊急対応マニュアルを策定しています。また、緊急対応が書かれたポケットメモを職員は携行しています。職員は緊急事態発生時の説明を受けていますが、アルバイトの危機管理対策については、決まりがありません。職責・配置場所に応じた初動対応は、説明をしておくことが望ましいです。</p> <p>施設の点検は定期的に行い、危険個所のチェックをしています。また管理者層による館内巡回で、危険個所のチェックを行っています。</p> <p>複合施設全体の避難訓練には、職員と一部アルバイトが参加しています。当施設で自衛消防隊を編成し、独自で緊急時を想定した研修(不審者対応訓練)も実施しています。</p> <p>事件・事故等が発生した場合に備え、応急救護簿を準備しています。運営開始からこれまでに、事故は発生していません。</p>
<p>カテゴリー3 施設管理</p>	<p>当施設独自の点検チェックシートを作成し、動作や安全性について毎日点検を行っています。点検で発見された不具合は区と共有し、速やかに対応の協議や修繕を行っています。</p> <p>日常清掃については、閉館時の消毒やプラネタリウムの座席清掃を実施しています。適切に清掃が行われており、清潔感や衛生面についての気遣いが見られます。</p> <p>1F の階段下の資材が利用者から見える状態になっているなど、館内の整頓や美観の維持に関しては見直しを図ることを推奨します。</p>
<p>カテゴリー4 個人情報保護</p>	<p>個人情報の重要性や取扱方法を理解し、規定やマニュアルの整備と適正な運用を行っています。総務管理チームリーダーが個人情報保護の責任者となり、情報が適切に取扱われているかをチェックしています。アルバイト・パートを含む全職員が、個人情報保護の研修を毎年受講しています。</p>
<p>カテゴリー5 指定管理料の 執行状況</p>	<p>会計は、代表企業による当館の全般的な運営と、共同事業体によるプラネタリウム運営及び施設の全般的な維持管理に分け執行しています。代表企業と構成企業のいずれも、施設内の責任者と本社で予算執行を確認する仕組みを取っています。</p>
<p>カテゴリー6 地域との 交流と連携</p>	<p>企画展や講座、イベント、サイエンスフェスタ等で、区内の企業、大学、公立学校、法人団体等との連携した事業の開催や、港区内の企業・団体が主催するイベントに積極的に参加しています。大使館からは、企画展で後援や展示協力を受けています。また、港区の元教職員を採用や、区民による科学館ボランティアの登用など、地域の人材を運営に生かしています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防の観点から、連携事業等の見送りがありましたが、感染者の発生状況を見ながら地域ネットワークを拡大し、充実させてきていると評価できます。</p>

Ⅲ 適切なサービスの提供	
カテゴリー1 利用者を尊重したサービス	<p>施設の情報発信は、パンフレット、チラシ、ポスター、ホームページ、SNS (Twitter)等の多様な媒体で案内を行っています。</p> <p>多言語化への対応については、英語、中国語が話せる職員の配置や、翻訳機器を用意しています。パンフレットは 4 か国語(日本語・英語・ハングル・中文)で発行し、ホームページは英語表示も選択できるようにしています。館内掲示物やサインは、展示室の一部で英語表記をしています。漢字のふりがな表記も一部で行っていますが、多様な利用者に向けて増やしていくことを推奨します。</p> <p>施設を利用する際にサポートが必要な方から要望があった場合には、個別に対応をしています。また、区内の特別支援学校へ施設の案内を行い、利用を促しています。</p>
カテゴリー2 利用者意向の把握と活用	<p>利用者からの要望や苦情については、アンケート、電話、口頭での聞き取り等、複数の方法で収集しています。利用者から意見や苦情があった場合は、適切かつ迅速に対応するとともに、区へも相談や情報共有を行っています。意見への対応については、速やかに改善策を実施しています。</p> <p>運営全体のアンケートを設置・配布し、月次で集計をしています。企画展の実施時期には、運営全体のアンケートの内容を組み替えたアンケートを行っています。また、イベントや学校団体として来館した生徒・児童にもアンケートを行っています。寄せられた意見は、利用者サービスの向上に生かしています。</p> <p>来館者だけでなく、みなと区民まつりでは一般来場者にアンケートを実施し、地域ニーズの把握にも取り組んでいる点が評価できます。</p>
カテゴリー3 サービスの質の確保	<p>みなと科学館としての基本マニュアルや、各チームにおけるマニュアルや手順書を策定し、業務に用いています。マニュアルの内容に則して、研修も行っています。また、日頃から職員が交代で作業にあたるなど、全員が同じレベルで従事できるよう、対策をしています。マニュアルは、実際の手順と乖離が見られる場合は、その都度改訂できるようにしています。</p> <p>全体会議は月 1 回開催し、進捗の報告や情報共有、意見交換を行っています。そのほか、マネジメント層によるミーティングや、チームごとのミーティングを随時行っています。チームミーティングは、各職員がアイデアを出し合い、解決策を話し合う場が醸成されています。日常的な情報共有は、毎日、朝礼・中締めの中で、スタッフ全員に伝達しています。そのほかの情報伝達手段として、チームごとのノートやホワイトボード等を用いて情報共有を行っています。</p>

Ⅳ 科学体験の場の提供	
カテゴリー1 科学体験の場の提供	<p>施設案内やイベント・講座の案内、展示解説は、平易な言葉を使用しています。また、展示解説員を配置し、対象者に応じたわかりやすい説明をしています。展示内容やイベントは、見ることや体感することを通じて、楽しみながら科学に触れられるよう工夫を凝らしています。</p> <p>イベント情報のお知らせにあたっては、具体的な内容や対象年齢、参加条件等を記載し、利用者自身に合ったものを選択できるようにしています。</p> <p>講座やイベントの開始前にはルールや注意事項の説明を行い、安全・安心に参加できるよう配慮をしています。</p>

<p>カテゴリー2</p> <p>科学体験の個別の取組</p>	<p><b>【科学館】</b></p> <p>常設展示コーナーや企画展等を開催するエリアに展示解説員を配置し、利用者の年齢に応じて展示内容、イベント内容等をわかりやすく説明しています。企画展は年4回行い、企画展の合間に理科学研究作品展や、発明工夫展を開催しています。話題性や人気のあるテーマ、企業や大学と連携した最先端科学技術の紹介等、何度訪れても新たな科学と出会い、探求心の掘り起こしに繋がるよう、企画を展開しています。</p> <p>イベント・講座等は多様な事業をバランスよく計画し、当初の計画を上回る回数を開催しています。回数もさることながら、体験やコミュニケーションを通じ、科学への深い理解と探求心を育む内容となるよう工夫を凝らしています。</p> <p>子ども向けとしては、小学生を対象とした科学教室や企画展関連の講座、発明クラブ、幼児向けのキッズサイエンス等を行っています。一般向けの科学講座やサイエンスカフェは、最新の科学や社会状況を見ながら、分野が偏らないようテーマを選び開催をしています。サイエンスショー(液体窒素、遠心力、ロケット等)は、子どもから大人までが科学的現象を楽しく体感できる内容となっています。また、専門家による天文講演会や、気象庁や自然科学研究機構、気象予報士会と連携した講座も定期的で開催しています。</p> <p>また、科学を通じた地域の連携を促進すべく、区内企業や公立学校、気象庁、大使館等と協力し、サイエンスフェスティバルの開催や企画展の充実を図っています。</p> <p>学校団体に向けては、利用の手引きを作成し、区内の学校に配布しています。来館する学校向けのガイダンスや、ワークシートの提供も行っています。来館時のプログラム(実験、展示学習、学習投影)を用意し、授業の一環で活用できるようにしています。</p> <p><b>【プラネタリウム】</b></p> <p>様々な対象者に向けた、多彩なプログラムを展開しています。一般向けの投影として、映像番組や生解説番組の投影、その時々天文現象をとらえたプログラム等を用意しています。講師による星空ゼミや、プラネタリウムの投影と音楽やヨガ・アロマ・英語等を組み合わせたプログラムを開催し、好評を得ています。幼児向けとしては、キャラクターが登場する「まくまくん」のシリーズを投影し、季節ごとの星座の解説をしています。学校団体向けの番組としては、学習指導要領に沿った内容を港区教育委員会と制作し、学校団体利用時に投影しています。</p> <p>また、当施設のオリジナルの映像番組の制作・投影や、新たな番組の配給をしています。何度来ても異なる角度からプラネタリウムを体感でき、宇宙や天体への関心を高める工夫を行っています</p> <p><b>【情報の発信】</b></p> <p>広報・情報の配信先リストを作成し、内容に応じて随時配信を行うほか、重要なニュースについては、プレスリリースの配信サービスを通して多くの媒体に配信するようにしています。情報サイトへの掲載も行っています。</p> <p>ホームページやTwitterを通じて、イベントニュースやプラネタリウム、企画展のトピックス等を切れ目なく配信しています。Twitterについては、1日1回以上の投稿を基本のペースとしています。加えて、企画展関連の協力者と連携し、協力者の発信力を活かした当施設の情報のPR等も行っています。</p> <p>また、港区のミュージアムネットワークへの加盟や、区内の企業や学校、気象庁、大使館、郷土歴史館等との情報共有、連携事業を推進しています。</p>
---------------------------------	---

#### 4. 利用者アンケート結果における満足度

利用者満足度は、「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」の4段階で調査しています。ここでは、「満足」と「ほぼ満足」を合算し、「満足の回答」としました。

「常設展示コーナーの満足度」の満足の回答は、99.9%です。

「プラネタリウムの満足度」の満足の回答は、97.8%です。

「スタッフの対応の満足度」の満足の回答は、99.9%です。

いずれの設問においても、満足の回答は100%近くとなっており、非常に高い満足傾向にあるといえます。また、記述による回答でも、「たのしかった」「また来たい」という声が多く、指定管理者の運営状況に対する不満の意見はほとんど見られませんでした。

#### 5. 事業計画書の目標値の達成

令和2年度・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症発生による施設の臨時休館や一部施設の利用・イベントの中止、予約制による人数制限等がありました。その影響で、令和2年度は年間利用者数の目標値に達していませんが、令和3年度は達成しています。また、令和4年度は訪問調査の時点で21万人を越え、達成しています。

開館直後から新型コロナウイルス感染症の影響により、十分に事業や広報活動を推し進めることが難しい状況ありましたが、制限が緩和されるに伴い利用者数も堅調に推移しています。引き続き、感染対策を取りつつ着実に事業を積み重ね、施設の利用促進に取り組むことを期待します。

年間利用者数目標	令和2年度実績		令和3年度実績	
	100,000~120,000人	合計	70,330人	合計

プラネタリウム使用料 年間合計	令和2年度	令和3年度
	8,533,200円	9,098,040円

## 6. 個別評価結果

### I 基本方針と組織

#### カテゴリー1 理念・基本方針

評価項目1		評価結果
施設が目指していること(理念、ビジョン、基本方針等)を明確化し、周知している		A
評価基準		評価
1	施設が目指していること(事業コンセプト、運営の基本方針等)を明文化している	○
2	施設が目指していること(事業コンセプト、運営の基本方針等)について、職員の理解を深める取組みをしている	○
3	施設が目指していること(事業コンセプト、運営の基本方針等)を利用者に周知している	○
評価の講評		
<p>施設が目指していることについては、「科学館事業のコンセプト」や「運営の基本方針」である9つの指針を明文化し、職員が常時目にする事ができるよう、事務室に掲示しています。</p> <p>年度当初の全体会議で運営方針を説明し、各チームリーダーが重点策を説明する時間を設けています。定期開催している企画会議で、常に事業コンセプトに立ち返り、内容を組み立てています。</p> <p>利用者には、ホームページ上で上記のコンセプトや指針を公開しています。</p>		

#### カテゴリー2 計画の策定と実行

評価項目2		評価結果
施設の運営についての課題を把握し、事業計画を策定している		A
評価基準		評価
1	理念・ビジョンの実現に向けた年度計画や長期的な計画を策定している。	○
2	課題の明確化や計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○
3	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域のニーズなど)を踏まえて策定している	○
評価の講評		
<p>指定管理応募時の事業計画が、長期計画となっています。中期計画として、年度事業計画を策定し、計画に基づき活動を実施しています。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症のため、休館や事業活動の制限がありましたが、令和4年度は制限が緩和され、計画通りに進展しています。</p> <p>計画への現場の意向の反映として、事業計画やイベントの企画時に、一般の職員へ企画意図の説明やヒアリングを行い、現場からの意見を取り入れながら作成をしています。また、日常的にはミーティングや、朝礼・中締め、連絡ノート等で意見を拾いあげ、課題の抽出をしています。</p> <p>アンケートの意見は、運営計画へ反映しています(プラネタリウム番組編成への反映、学校利用合同説明会での回答に活用)。また、利用者層を見ながら、講座等の開催日時を設定しています。</p>		



評価項目3		評価結果
計画(企画展や番組編成の個別計画)は段取りを踏みながら、着実に実行できるよう取り組んでいる		A
評価基準		評価
1	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明らかにしている	○
2	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明らかにしている	○
3	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(隔週など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○
評価の講評		
<p>適切なマネジメント体制が構築されており、計画(企画展や番組編成の個別計画)の推進にあたっては、各種のチーム(広報・連携、教育普及、教育アドバイザー、プラネタリウム)がそれぞれ役割を担っています。各チームには、チームリーダー、サブリーダー、その下に担当者がおり、リーダー層がチームに課せられた役割の推進をけん引しています。各種事業の推進においては、プロジェクトアドバイザーによる学術的な助言を反映し、協議により練り上げています。</p> <p>達成目標は、年間の利用者数(科学館利用者数、プラネタリウム観覧者数、実験室等の利用者数、多目的ロビー(企画展示等))で設定しています。新型コロナウイルス感染症による事業活動の制限がある中でも、令和3年度は年間の利用者数目標を達成することができています。今後、さらに高い目標を設定し、事業を推進していくことを期待します。</p> <p>計画は月次や事業ごとに、職員体制や利用状況を確認しながら、実施体制やスケジュールを立てています。計画の進捗は、月次の職員会議やチームごとのミーティング等において確認し、計画に支障が生じる場合には、見直しをしながら軌道修正を図っています。</p>		

### カテゴリー3 管理者の責任とリーダーシップ

評価項目4		評価結果
管理者(施設の責任者および経営層)は、公の施設の管理運営者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		A
評価基準		評価
1	管理者は職員に対し、公の施設の管理運営に従事する者として、守るべき規範・倫理(個人の尊厳)等を明示している	○
2	管理者は職員に対し、守るべき規範・倫理(個人の尊厳)等の理解が深まるような取り組みをしている	○
評価の講評		
<p>「館の理念」「コンセプト」「運営の基本方針」「区の職員としての服務規程」を事務室内のスタッフの目につく場所に掲示するとともに、ファイリングして職員に周知をしています。</p> <p>新規採用者に対するコンプライアンス研修や、e-ラーニングを通じたハラスメント研修、LGBTへの理解等に関する研修を行い、守るべき法・規範・倫理等を全体で共有しています。</p>		

評価項目5		評価結果
管理者(施設の責任者および経営層)は、管理者の役割と責任を職員に対して表明し、施設運営をリードしている		A
評価基準		評価
1	管理者は、業務の質の向上に意欲をもち、その取組みに指導力を発揮している	○
2	管理者は、重要な意思決定に関し、その内容と決定の経緯について職員に周知し理解を促している	○
評価の講評		
<p>全体は、館長・事務局長・プロジェクトリーダーが各チームを束ねています。各チームのリーダー・サブリーダーは、職員の業務の状況の確認と、職員一人一人が行う事業へのアドバイスや具体的な対応を指示しています。</p> <p>事業全体やイベント・講座の目的や実施手法等については、ミーティングで理解を促しています。また全体会議等では、どのような会議体を経て決定したか、担当者やスタッフへフィードバックする機会を設けています</p>		

## II 組織の運営管理

### カテゴリー1 人材の確保・育成

評価項目6		評価結果
施設の運営にあたり必要な人材の確保・育成に取り組んでいる		A
評価基準		評価
1	当施設の職員としての人事制度に関する方針(人材像、評価の考え方等)を明示している	○
2	当施設が必要とする人材の確保ができるよう、育成や採用の工夫をしている	○
3	当施設の特性や状況を踏まえた人材構成や人員の配置をしている	○
評価の講評		
<p>科学館の設置目的を達成するために必要な、それぞれの職員に求める人材像は、目標設定シートを通じて理解を深めています。また職人に対し面談を年2回行い、各職員に求められる役割と現状の実績や態様について、フィードバックしています。</p> <p>人材の確保については、学芸員募集を専用に出すサイトや有料媒体の活用等により、採用活動を行っています。職員の育成については、配属に応じた研修計画を策定しスキル向上を図っています(全国科学博物館協議会の研修制度の活用、国立科学博物館のセミナーへの参加等)。</p> <p>人材の配置については、当館の特色となる業務に対応できるよう、業務経験やスキルを考慮しています。元学校教員を教育アドバイザーとして学校支援チームに配置し、学芸員や教育職経験者、研究職であった者を教育普及・プラネタリウムチームに配置しています。また、外部の有識者と会議を開催し、アドバイスを受けています。また、繁忙期はアルバイトを雇用し、運営力を高めて業務を遂行しています。</p>		
評価項目7		評価結果
職員の就業状況に配慮をしている		A
評価基準		評価
1	就業状況を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○
2	職員間の良好な人間関係構築のための取組を行っている	○
評価の講評		
<p>スタッフ一人ひとりの労働条件を明確にし、日々の就業状況に逸脱がないか、共同事業体各社の本社により管理を行っています。施設内においては、スタッフにより業務の偏りがいないか、管理者層が確認を行っています。また、いずれの事業者も、ハラスメント等が発生した場合に相談できる窓口があることについて、スタッフに周知をしています。</p> <p>年2回のスタッフ面談では、活動実績の共有や目標のすり合わせ、就業状況の確認等を行うほか、職場での人間関係についてもヒアリングをしています。また、日常的に様子を見て気がかりなことがあれば、随時場を設けて状況をヒアリングしています。</p>		

評価項目8		評価結果
職員の質の向上に向けた体制を確立している		A
評価基準		評価
1	職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示し、研修を実施する意義を説明していますか	○
2	個別の職員に対しての教育・研修計画を策定し、計画に基づいて具体的に実施している	○
3	職員の研修成果を確認し(研修報告、テスト、受講の感想等)、教育・研修計画及び実施の評価・見直しを行っている	○
評価の講評		
<p>館長や事務局長が研修講師として加わり、科学館としての理念や大切にしていること、研修の目的等を説明しています。着任時には、当館の全体像を知るための研修プログラム(施設の概要説明、業務の種類・内容、コンプライアンス等)を準備し、全員が受講しています。</p> <p>着任時以降は、職員それぞれの職責に応じた研修計画を策定し、計画通りに研修を行っています。新型コロナウイルス感染症のため、オンラインやeラーニングも活用しています。</p> <p>受講後は研修報告書を提出し、業務への結びつけを行っています。</p>		

## カテゴリー2 安全管理

評価項目9		評価結果
利用者の安全・安心を確保するための危機管理の仕組みを構築している		B
評価基準		評価
1	利用者の安全の確保・向上を図るため、緊急事態発生時における職員の対応方法を明示している	△
2	利用者の安全の確保・向上を図るため、複合施設の関係機関(中央管理室)と連携をしている	○
3	危機管理マニュアル(地震、火災、事故、感染症の発生時等)を策定し職員に周知している	○
4	施設で起こりうるあらゆるリスクを想定し、未然防止の対策をしている	○
5	施設で起こりうるあらゆる緊急事態(救急搬送、不審者発生等)を想定し、定期的に対応訓練をしている	○
6	利用者の安全・安心に関わるトラブルや緊急事態(救急搬送、不審者発生等)が発生した場合、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○

評価の講評
<p>施設で起こりうる危機(事故・火災・地震発生、不審者発券、医療機関連絡先、避難経路、応急手当手順等)を想定した緊急対応マニュアルを策定しています。また、緊急対応が書かれたポケットメモを職員は携行しています。</p> <p>危機管理マニュアルは、職員に説明をしています。アルバイトの危機管理対策についての取決めがないため、職責・配置場所に応じた説明をすることが望ましいです。</p> <p>施設の点検は日常的に行い、危険個所のチェックをしています。また全体会議の際に、管理者層で館内を巡回し、危険個所をチェックする取組みを行っています。</p> <p>複合施設全体の避難訓練(年2回)には、職員と一部アルバイトが参加しています。当施設で自衛消防隊を編成し、編成表を事務室に掲示し、周知をしています。また、当施設独自で緊急時を想定した研修(不審者対応訓練)を実施しています。</p> <p>事件・事故等が発生した場合に備え、応急救護簿を準備しています。運営開始からこれまでに、急病人等の救急搬送はありましたが、過失による事故は発生していません。</p>

### カテゴリー3 施設管理

評価項目10		評価結果
展示物等の設備機器類の管理を適切に行っている		A
評価基準		評価
1	展示物等の設備機器類に関して、動作や安全性に問題がないか日常点検・定期点検や整備を行っている	○
2	展示物等の設備機器類に関して、日常清掃・定期清掃を適切に行っている	○
評価の講評		
<p>当施設独自の点検チェックシートを作成し(展示コーナー、展示物、プラネタリウム設備、イベント等)、動作や安全性について毎日点検を行っています。</p> <p>点検で発見された不具合は区と共有し、速やかに対応の協議や修繕を行っています。</p> <p>日常清掃については、閉館時の消毒やプラネタリウムの座席清掃を実施しています。適切に清掃が行われており、清潔感や衛生面についての気遣いが見られます。</p> <p>1Fの階段下の資材が利用者から見える状態になっているなど、美観の維持に関しては見直しを図ることを推奨します。</p>		

カテゴリ4 個人情報保護

評価項目11		評価結果
利用者や職員のプライバシーを確保するための取組が行われている		A
評価基準		評価
1	個人情報保護に関する規定やマニュアル等を整備している	○
2	個人情報保護を取り扱う職員に対して研修を行い、適切に運用しているか確認をしている	○
3	個人情報保護を適切に行っている	○
評価の講評		
<p>区が定める、情報安全対策の実施手順の文書をファイリングし、常時閲覧できるようにしています。また、ホームページにおいて、港区立みなど科学館としてのプライバシーポリシーを明示し、港区個人情報保護条例等を遵守することを明示しています。</p> <p>アルバイト・パートを含む全職員が、個人情報保護の研修を年1回受講しています。総務管理チームリーダーが個人情報保護の責任者となり、情報が適切に取扱われているかをチェックしています。</p> <p>個人情報を記載した文書は鍵付きキャビネットで保管し、保管期限が到来したものは適切に廃棄しています。</p>		

カテゴリ5 指定管理料の執行状況

評価項目12		評価結果
指定管理料や利用料金の会計管理を適正に執行している		A
評価基準		評価
1	伝票の管理や経理書類の作成を適切におこなっている	○
2	経理を担当する職員を複数名配置し、出納管理や経理書類を相互で確認している	○
3	施設外の人員(本社職員や会計士等)による監査を受けている	○
評価の講評		
<p>会計は、代表企業による当館の全般的な運営と、構成企業によるプラネタリウム運営及び施設の全般的な維持管理に分け執行しています。</p> <p>いずれも、複数人で予算執行を確認する仕組みを取っています。代表企業は、チームリーダーが内容を精査し、事務局長、館長が決裁を行う流れで、構成企業は責任者が一時承認し、本社で決裁を行う流れとなっています。</p>		

## カテゴリ6 地域との交流と連携

評価項目13		評価結果
地域との関係を適切に確保している		A
評価基準		評価
1	事業所の有する機能を生かし地域貢献に取り組んでいる	○
2	施設近隣地域の関係機関・団体や自治会・町会等と協力や連携をしている	○
評価の講評		
<p>企画展や講座、イベント、サイエンスフェスタ等で、区内の企業、大学、公立学校、法人団体等との連携のほか、大使館との連携を進めています。サイエンスフェスタでは、区内ベンチャー企業に自社の取り組みを紹介してもらい、最新の科学情報を発信しています。また、学校との橋渡しを担う役割として、港区の元教職員を科学館の教育アドバイザー(学校支援のチームリーダー)として雇用しています。区民の中から科学館ボランティアを募集し、展示解説やワークショップのサポートを行っています(登録者数6名)。</p> <p>港区内の企業・団体が主催するイベントにも積極的に参加しています(近隣のイラスト地図の作成、芝地区クリーンキャンペーンへの参加、再開発のエリアマネジメント組織が主催するイベントへの参加等)。大使館からは、冬の企画展で後援や展示協力を受けています(アメリカ・オーストラリア・エクアドル・ナミビア)。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防の観点から、サイエンスフェスタのオンラインでの開催や、ボランティア受入れの見合わせ、連携事業等の見送りがありましたが、感染者の発生状況を見ながら地域ネットワークを拡大し、充実させてきています。</p>		

## Ⅲ サービスの提供

### カテゴリ1 利用者を尊重したサービス

評価項目14		評価結果
利用者を尊重する姿勢を明示している		A
評価基準		評価
1	誰もが公平に施設が利用できるよう、幅広い媒体を使い施設の情報を提供している	○
2	利用者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしていく	○
3	利用について問合せや要望があった場合、状況に応じて個別に対応している	○

評価の講評	
<p>施設の情報発信は、パンフレット、チラシ、ポスター、ホームページ、SNS(Twitter)等の多様な媒体で案内を行っています。</p> <p>多言語化への対応については、英語、中国語が話せる職員を配置しており、その他の言語については、100か国語以上の言語が翻訳できる機器を用意しています。パンフレットは、4か国語(日本語・英語・ハングル・中文)で発行し、ホームページは英語表示も選択できるようにしています。</p> <p>館内掲示物やサインは、展示室の一部で英語表記をしています。漢字のふりがな表記も一部で行っていますが、多様な利用者に向けて増やしていくことを推奨します。</p> <p>施設を利用する際にサポートが必要な方から要望があった場合には、個別に対応をしています。プラネタリウムには専用席が2席設けられており、月数回、来場するリピーターもいます。また、区内の特別支援学校へ施設の案内を行い、利用を促しています。</p>	

## カテゴリ2 利用者意向の把握と活用

評価項目15		評価結果
利用者からの苦情や要望を多様な方法で把握し、迅速に対応している		A
評価基準		評価
1	利用者から要望や意見を集める仕組みが複数あり(アンケート・電話・メール等)、要望や意見を述べやすい環境を整えている	○
2	利用者からの苦情や要望があった場合、それに対応する仕組み(受付・記録・回答方法等)がある	○
3	利用者の苦情や要望があった場合、迅速に対応や回答をしている	○
評価の講評		
<p>運営全体のアンケートを設置・配布し、月次で集計をしています。アンケート結果は、月一回の定例会で報告し、メールや連絡ノートを通じて組織全体に共有しています。イベント毎にもアンケートを行い、集計・分析をしています。寄せられた意見は職員で検討し、課題の抽出や対応策の協議を行い、利用者サービスの向上に生かしています。</p> <p>利用者からの要望や苦情については、アンケート、電話、口頭での聞き取り等、複数の方法で収集しています。利用者から意見や苦情があった場合は、苦情対応マニュアルに則り適切かつ迅速に対応し、区へも相談や情報共有を行っています。クレーム記録も作成しています。</p> <p>意見への対応については、組織的に対応策や回答を協議し、速やかに改善策を実施しています(イベント整理券の配布方式の変更等)。</p>		



評価項目16		評価結果
利用者の意向を集約・分析し、サービス向上に取り組んでいる		A
評価基準		評価
1	利用者アンケート等により、利用者の意向を把握している	○
2	利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状や問題を把握している	○
3	利用者アンケート等により、利用者の意向を把握している	○
評価の講評		
<p>運営全体のアンケートと、企画展の実施時期にはそれに合わせて内容を組み替えたアンケートを行っています。また、イベントや学校団体として来館した生徒・児童にもアンケートを行っています。来館者だけでなく、みなと区民まつりでは一般来場者にアンケートを実施し、地域ニーズの把握にも取り組んでいる点が評価できます。</p> <p>アンケートは月次やイベントごとに集計し、全体で共有するとともに、利用動向の把握や課題の抽出をしています。</p> <p>利用者の意向は区へも報告し、企画への反映や利用者サービスの向上に生かしています(プラネタリウムの投影時間の変更等)。</p>		

### カテゴリ-3 サービスの質の確保

評価項目17		評価結果
それぞれの業務に関する手引書等を整備し、業務の標準化を図っている		A
評価基準		評価
1	マニュアル等で、業務の基本事項や手順等を明確にしている	○
2	マニュアル等に沿って業務を行っているか、確認をしている	○
3	マニュアル等で業務実態にそぐわない内容が生じた場合、改訂等を行い職員に周知している	○
評価の講評		
<p>みなと科学館としての基本マニュアルや、各チームにおけるマニュアルや手順書を策定し、業務に用いています。</p> <p>マニュアルの内容に則して、研修も行っています。とくに、重要かつ頻度の高い業務(公式サイト更新等)については、マニュアルに沿って業務を行っています。また、日頃から職員が交代で作業にあたるなど、全員が同じレベルで従事できるようにしています。</p> <p>マニュアルは、実際の手順と乖離が見られる場合は、その都度改訂できるようにしています。</p>		

評価項目18		評価結果
業務水準の維持や利用者に標準化した対応をするため、職員間の連携をしている		A
評価基準		評価
1	打ち合わせや会議等の機会を通じ、各種の連絡や通達事項を職員全体に行き渡らせている	○
2	打ち合わせや会議等は、職員が業務の確認や意見を述べる場として機能している	○
3	利用上の問題や安全性に配慮できるよう、日常的に職員間で情報共有する仕組み（連絡ノート、掲示板等）がある	○
評価の講評		
<p>全体会議は月1回開催し、進捗の報告や情報共有、意見交換を行っています。そのほか、マネジメント層によるミーティングや、チームごとのミーティングを随時行っています。</p> <p>チームミーティングは、各職員がアイデアを出し合い、解決策を話し合う場が醸成されています。</p> <p>日常的な情報共有は、毎日、朝礼・中締めの中で、スタッフ全員にその日の出来事を伝達しています。そのほかの情報伝達手段として、チームごとのノートやホワイトボード等を用いて情報共有を行っています。内容によっては一般スタッフにも情報を共有しています。</p>		

#### IV 科学の活動に関するとり組

##### カテゴリー1 科学体験の場の提供

評価項目19		評価結果
科学についての関心を高め、楽しく体験することができる場を提供している		A
評価基準		評価
1	子どもから大人まで幅広い層の利用者が、気軽に施設の利用やイベント等への参加ができるような雰囲気作りや内容を提供している	○
2	利用者に対し、各種の活動を選択するために必要な情報をわかりやすく提供している	○
3	施設の利用やイベント等への参加の際に、ルールや注意事項などをわかりやすく説明している	○
評価の講評		
<p>施設案内やイベント・講座の案内、展示解説は、平易な言葉を使用しています。また、展示解説員を配置し、対象者に応じたわかりやすい説明をしています。展示内容やイベントは、見ることや体感することを通じて、楽しみながら科学に触れられるよう工夫を凝らしています。</p> <p>実験やワークショップ、プラネタリウムの番組表等のイベント情報は、ホームページやチラシ等で告知する際に、具体的な内容がわかるように表記しています。また、対象年齢や参加するための条件等を記載し、利用者自身に合ったものを選択できるような情報を提供しています。</p> <p>施設を利用している際に、注意が必要な行動がある利用者へは声掛けをしています。また、講座やイベントの開始前には、ルールや注意事項の説明を行っています。</p>		

##### カテゴリー2 科学の体験の個別の取組み

評価項目20		評価結果
科学に関する各種の事業を行っている		A
評価基準		評価
1	科学に関する展示(常設展示コーナー、企画展示物等の展示説明・案内・監視業務)を実施している	○
2	学校団体向け理科授業(天文学習、展示学習、実験等)を実施している(学校との連絡調整を含む)	○
3	小学生を対象とした科学教室を実施している	○
4	一般の利用者を対象とした科学講座(科学に関する様々な実験、工作)を実施している	○
5	科学に関する企画展、作品展、発明展等を実施している(募集を含む)	○
6	教育機関や企業等と連携し、科学に関するイベントを実施している	○

7	サイエンスショーやワークショップ等の各種イベントを実施している	○
8	気象庁との連携事業を実施している	○
<b>評価の講評</b>		
<p>常設展示コーナーや企画展等を開催するエリアに展示解説員を配置し、利用者の年齢に応じて展示内容、イベント内容等をわかりやすく説明しています。港区の街を知り、そこから利用者の興味関心を引き出すよう案内解説をしています(クエスト map の活用等)。解説員は、企画展やイベント等を開催する場合には、都度内容についての研修を受けています。また、各コーナーで利用者に展示解説を行いながら、声かけや行動の見守りを行っています。</p> <p>学校団体の利用に向けては、利用の手引きを作成し、区内の学校に配布しています。毎月、翌月に来館する学校にガイダンスを開催し、希望がある場合にはワークシートも提供しています。学校団体が利用する際には、実験室での実験や、展示学習、学習投影を用意し、授業の一環で活用できるようにしています。出前授業のプログラムとして、学校星空観察会を行っています。</p> <p>子ども向けの科学教室として、小学校4年生を対象とした、みなと科学教室を土曜日に行っています。また、幼児向けのキッズサイエンスや、企画展関連の講座、発明クラブ等の様々な事業を行っています(ロボット、工作・実験、気象講座等多様なテーマ)。</p> <p>一般向けの科学講座やサイエンスカフェは、週末に行っています。最新の科学や社会状況を見ながら、分野が偏らないようテーマを選んでいきます。利用者の反応が良いものは、リピートして開催をしています。</p> <p>企画展は年4回行い、企画展の合間に理科学研究作品展や、発明工夫展も開催しています。話題性や人気のあるテーマ、企業や大学と連携した最先端科学技術の紹介等、何度訪れても新たな科学と出会え、探求心の掘り起こしに繋がるよう、企画を展開しています。</p> <p>区内企業や公立学校、気象庁等と連携し、みなとサイエンスフェスティバルを開催しています。また、国立天文台等から専門家を招き、天文講演会を開催しています。</p> <p>科学的現象を体感するサイエンスショー(液体窒素、遠心力、ロケット等)や、街歩きや自然観察を行う野外講座(自然教育園、化石探し、星空中継等)を行っています。</p> <p>気象庁や自然科学研究機構、気象予報士会等と連携した講座も定期的に開催しています。また、気象科学館について、科学館と一体となった案内ができるよう、職員に周知をしています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になったものもありますが、いずれの取組みも実施できる計画や実施体制を整えています。</p>		
<b>評価項目21</b>		<b>評価結果</b>
プラネタリウムに関する各種の事業を行っている		A
<b>評価基準</b>		<b>評価</b>
1	一般の利用者を対象とした天体に関する番組の投影と解説を実施している	○
2	幼児を対象とした星座、神話等の番組の投影と解説を実施している	○
3	学校団体を対象とした学習ブロック(学習指導要領)に基づいた番組の投影と解説を実施している	○

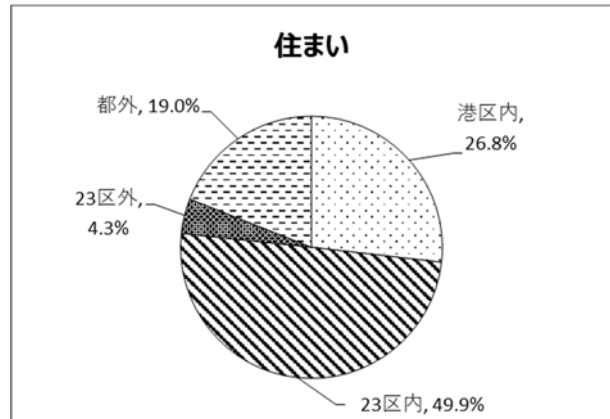
4	時節に合わせた天文現象等の特別プログラムの番組の投影と解説を実施している	○
評価の講評		
<p>一般向けの投影として、幅広い年齢層に向けて、映像番組や生解説番組(七夕や月食などの時節や天文現象をテーマ)を投影しています。講師による星空ゼミのほか、プラネタリアムの投影と音楽やヨガ・アロマ・英語を組み合わせたプログラムも開催し、好評を得ています。</p> <p>幼児向けとして、ストップモーションによるキャラクターが登場する「まくまくん」のシリーズを投影し、季節ごとの星座の解説をしています。</p> <p>学校団体向けの番組として、学習指導要領に沿った内容を港区教育委員会と制作し、学校団体利用時に提供しています(小学校4年生向け・小学校6年生向け、中学校2年生向け、中学校3年生向け)。</p> <p>その時々々の天文現象をとらえたプログラムを用意し、様々な対象者に向け、宇宙や天体への関心を高める工夫を行っています(皆既月食のライブビューイング)。</p> <p>また、当施設のオリジナルの映像番組を年1回程度制作し、投影をしています(「宇宙船ソレイユで行く! 太陽系クルーズ」「AI探検隊 月のヒミツを調査せよ!」)。そのほか、新たな番組を年4回程度配給しています。</p>		
評価項目22		評価結果
科学館の魅力を伝える広報や情報の発信を行っている		A
評価基準		評価
1	みなと科学館の広報・情報発信を行い、利用促進を図っている(ウェブサイト、SNSなどの管理・更新、広報みなとの原稿作成)	○
2	港区における科学情報についての拠点として情報を発信し、科学を通じた交流の場を提供している	○
評価の講評		
<p>広報・情報の配信先リストを作成し、内容に応じて随時配信を行うほか、重要なニュースについては、プレスリリースの配信サービスを通して多くの媒体に配信するようにしています。また、家族向けのお出掛け情報サイトや、天文情報専門サイト等に、イベント情報やプラネタリアム新作情報の掲載をしています。学校団体については、「学校団体向け利用の手引き」をホームページ上に掲載し、いつでも閲覧できるようにしています。また、各学校の先生を招いた事前見学会でも周知しています。</p> <p>ホームページやTwitterを通じて、科学館イベントニュースやプラネタリアムの注目の投影、企画展のトピックス等を切れ目なく配信しています。Twitterについては、当施設における活動だけでなく、科学や宇宙に関する情報を概ね1日1回以上、投稿しています。加えて、企画展関連の協力者と連携し、協力者の発信力を活かした当施設の情報のPR等も行っています(2021年度夏の企画展・協力者(荒木健太郎氏)のtweetで1,000件を超えるいいね!を獲得)。</p> <p>また、港区のミュージアムネットワークに加盟しており、ネットワークを活用した情報発信や、協議会への参加を通じた事前情報を取得するようにしています。また、区内の企業や学校、気象庁、大使館、郷土歴史館等と、情報共有や連携事業を推進しています。</p>		

## 7. 利用者アンケート調査集計結果

### (1) 利用者属性

#### ① 住まい

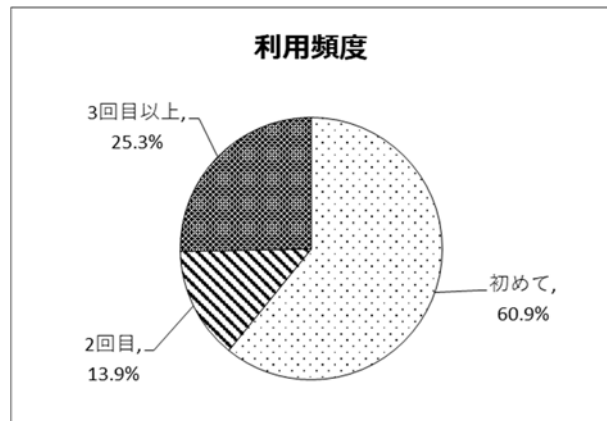
住まい	人	%
港区内	294	26.8%
23区内	546	49.9%
23区外	47	4.3%
都外	208	19.0%
合計	1,095	100.0%



### (2) 利用状況

#### ① 利用頻度

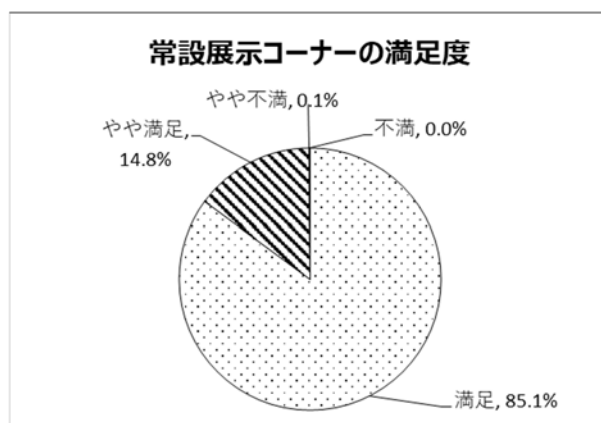
利用頻度	人	%
初めて	666	60.9%
2回目	152	13.9%
3回目以上	277	25.3%
合計	1,095	100.0%



### (3) 満足度

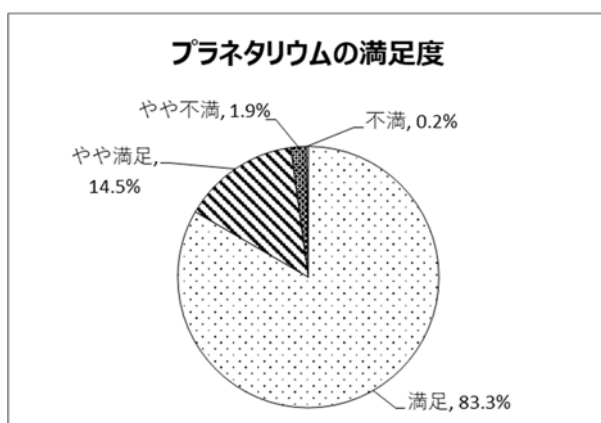
#### ① 常設展示コーナー

常設展示コーナーの満足度	人	%
満足	932	85.1%
やや満足	162	14.8%
やや不満	2	0.1%
不満	0	0.0%
合計	1,095	100.0%



#### ② プラネタリウム

プラネタリウムの満足度	人	%
満足	548	83.3%
やや満足	95	14.5%
やや不満	13	1.9%
不満	2	0.2%
合計	657	100.0%



#### ③ スタッフの対応

スタッフの対応の満足度	人	%
満足	981	89.6%
やや満足	103	9.4%
やや不満	2	0.1%
不満	9	0.9%
合計	1,095	100.0%

